

額縁庭園

11世紀初頭(1200年頃)に設立された宝泉院は、最初は近くの勝林院の僧坊として機能していました。日本仏教の天台宗の寺院であり、おそらくその客殿から見る事ができる「額縁庭園」が最もよく知られています。

寺院が11世紀初頭に建てられたのと同時に敷設された庭園は、客殿の中央にある畳の間から眺めるのが一番美しいとされています。客殿の木製の柱とまぐさに囲まれた庭は、絵画のような印象を与えます。

右側にもある同様の「額縁」は、苔で覆われた庭園の別の画像を提供します。

庭の裏手には、絵の背景のように機能する背の高い竹が、風で揺れて音をたてながら立ち並んでいます。中央の五葉松は、樹齢約700年であると考えられています。

庭園には、全体を厚い苔に覆われた手水鉢と「水琴窟」があります。この装置は、流水の下で回転するよう配置された長い竹で作られています。竹の容器が水でいっぱいになると、前方に傾いて水をこぼれ、容器が元に戻る時に反響する音が出るようになっています。

訪問者には伝統的な方法で淹れられた抹茶を飲みながら庭を眺め、物思いにふけることができます。秋は、木々の葉が色づき、一年の中でも最も美しい時期とみなされています。